

第 15 号

平成12年
3月1日

題 字
植 木 満 会 長

東 進

発 行 所

土浦一高東進会

(茨城県立土浦一高)
進 修 同 窓 会
東 京 支 部

事務局 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-2-10 サニープラザ新宿御苑1102
大野金一法律事務所内 TEL 03-3357-4311 FAX 03-3357-4312



旧本館廊下

平成十二年度

東進会総会・懇親会

時 平成十二年六月三日(土)

十二時～十六時

於 神田学士会館

(地下鉄「神保町」駅前)

今回は趣を変えて、神田学士会館で開催します。会費も五〇〇〇円にして、二次会参加者等の負担軽減を図りました。

四月に入ってからご案内申し上げますが、予めご了承ください。

なお、今回の当番幹事は昭和四十一年卒の皆さんです。

【イベント】

海老原順夫妻とジャズバンド「吉本泰一郎とスウィング・スターズ」(三〇～四〇年間ジャズ一筋の面々、都内のライブハウス「マ・ヴィ」「ローズルーム」他、東京デイズニールンド各種イベントで活躍中)

- トランペット 中村良一
- トロンボーン 松本耕二
- クラリネット 吉本泰一郎
- ピアノ 大橋高志
- ベース 安保英夫
- ドラム 小倉良寛

(出演者の紹介は4頁に)

各学年会の近況

同窓会二九会の今昔

(二九会幹事) 小松澤 慎 二

私達のクラスは、昭和五年第二九回卒業生として進修会に入会したわけである。その関係で懇親会を二九会と名付けたのである。会の活動としては

- ・ 友情を温める懇親会の開催
- ・ 進修年会費の合同処理
- ・ 会報の発行
- ・ 母校一〇〇周年記念事業の計画への参加

- ・ 母校一〇〇周年記念費贈呈事業
- ・ 卒業五〇周年記念祝賀会の参加
- ・ その他

懇親会は当初三年毎に開催し、元気な会合を続けて参りましたが、最近老齢化が進み、病氣療養中の者や死亡者も増え、入学時一五〇名、卒業時一一九名の同窓が現在二五名まで激減し、それに近年になって世話をしてくれた土浦在住の幹事三名のうち二名までが逝去されたので、話し合いの上昨年二九会の解散が議題に上り、この際解散もやむを得ないと言う結論に達し、幹事二名逝去後、昨年事後処理をして、解散を承認することになった次第です。

二九会最後の会合では、平成六年

頃だったが土浦駅前のホテルで出席者二〇名集合し、特に恩師永山正先生が九〇才の高齢にも拘らず出席され、元気な声で私達に「私は只今九〇才で元気ですが、皆さんも私を置いて逝かないように十分健康に留意されたい」と温かい御配慮を頂き一同感激いたしました。また酔えば昔の少年時代の頃を思い出し侃々諤々と論陣を張る人もおれば、酔っても温和なしい人もおるし、また生死の境を彷徨した思い出話、それに皆競争体験の思い出話などつくることのない話に感激一入のひとときを持ち合った会合となりました。また、二九会では幹事の努力で、会報を逐次発表して頂き同窓生の健康状況はじめ、趣味の生活、活動状況を知るこ

とが出来、幹事の努力に感謝して参りました。会員逝去の際は、幹事と数人の会員が付添って、必ず自宅訪問し、御遺族に会員全体がご冥福を祈っている気持ち伝え、ご香料を捧げて参りました。これは、距離的に遠近があり大変な仕事となります。その御苦労に対し皆感謝の気持ちで一杯になります。時が立ち卒業を迎える今日この頃ですが、老いても心に喜びがあり希望があると、苦難の壁は突破できるものだと思います。どんな事態に合っても毅然とした態度をもちつづけ、悔いのない人生の幕を静かに閉じることが出来れば最

高の幸せとと思っています。

最後に、ここに残された同窓生一同が長寿を全うするよう心をこめてお祈りいたします。



旧制中学第四五回・昭和二〇年卒業生 東進土中四五回同窓会

(会長) 渡邊 光夫

(幹事) 井上敏治・狩谷孝雄・小堀敏彦・坂井祥司・酒寄和郎・篠田康・篠山文夫・広瀬琢朗・松尾一郎・山口進(会員四十名)

平成四年首都圏在住の同級生の連絡網として結成された当会は、東進会・土浦の土中四五回同窓会と密接な関係を保ちながら活発な活動を続けてきた。就中当会が原動力となり戦後五十年・卒業五十年を記念して平成七年に挙行した「第一海軍航空廠動員学徒の集い」は記念すべき集会であった。

特にその記念誌「戦いのなかの青春」は、当時を物語る貴重な資料として高い評価をうけ国会図書館・茨城県立図書館・同歴史館をはじめ茨城県市町村に寄贈、本年は九段に新設された「昭和館」の資料として、また和田隆先生のお力添えで「大英図書館」へも納本することにもなっている。

会員は平成十一年に全員古希を迎



えたが

おいてますますさかんなるべし
老 當 益 壯

を合い言葉に頑張ろうと誓い合っている。

写真は平成十一年四月十六日の「第六回総会と物故会員を偲ぶ会」での撮影。



昭和二十三年卒・旧制中学四八回生

山藤 和夫

平成十一年十一月初冬、浅草五六会館において、東京桜水四八会、土女四二有志会、合同の同期親睦会



を行いました。戦中戦後の学窓生活、男女七才にして席を同じうせざるの教育を受けた者達が、五三年過ぎし今日、共に杯を酌み交わし、紅顔可憐の美少年、お下髪の美少女の姿に戻り、昔話に花が咲き、若さを取り戻しました。

話題は苦しかった学徒動員の記憶です。中学二年の二期期(昭和十九年一月)阿見の海軍航空廠に動員され、終戦まで空襲に脅え油まみれの毎日でした。土浦高女の同期生

もモンペをはき、白鉢巻姿で働いているのを横目で、そっと見ていたものでした。

我々は古稀を迎え、第二の人生の後半に入りましたが、益々元気で再会を約束し、閉会後幹事の計らいで花魁シヨウ観劇、松葉屋紫大夫と記念撮影、お大尽になった気分、浅草の夜の楽しい一時を過ごしました。

八回卒(三十一年卒)の集まり

大野金一

八回卒は、同期の坂本善之君(東進会常任顧問)が大塚で総合飲食店「玉淀」を出していることから、東京在住の同期生を中心にいろいろな呑み会をやっている。

十数年前までは毎月定例日を決めておいて、その日に何となく集まって語り合うスタイルであったが、世の中何かと忙しくなって、それは少なくなつた。しかし、それとは別に、遠方の同期生が上京したとか、同期生が何かの役についたとか、何かと名目をつけて、それを酒の肴にして呑むというのが多い。去る一月二十二日(土)には、荒川沖の鈴木篤夫君(元宝幸水産勤務)が「イースター島の悲劇」という、自らイースター島に足を運んでその歴史を調べ上げた著書を出版したので、その販促を兼



ねて「玉淀」に集まった。土浦二高卒の同期生も加わって約四十名が集まった。(写真はその一部、本の紹介は4頁に)

会社勤めの者は大体リタイアする年頃なので、時間はある、人にも会いたいということから、同窓会に参加する者は多くなる傾向がある。

東進会の総会の参加者数も毎年一、二番であるし謳酔会にいたっては毎回半数以上が八回卒である。

九友会の定例忘年会

片岡宏之

高校第九回卒(昭和三十二年)同窓生の会「九友会」有志による恒例

の忘年会が、去る十二月四日(第一土曜日)夜、土浦市内「えびすや」において開かれた。

この忘年会が開かれるようになったのは、高校卒業五年後の昭和三十七年暮れからで、当時土浦駅前の賑わいの中にあつた同窓生の店「片忠食堂」に開催の案内等は一切しないが、毎年十二月の第一土曜日夜七時より会を開くことだけを取り決めて土浦近隣の同窓生を中心に集い親睦を図ることにしたもので、以降、駅前再開場により会場が片忠食堂から



他に変わりはしたが、会を重ねること既に三十八回を数えた。

当時の参加者は、東京、千葉から駆せ参じた者を含め約三十名。その大半が現役を

離れたこともあって、ミレニアムの年に掛ける第二の人生への力強い豊富を語り合う等、和気あいあいの中にも有意義な忘年会であった。

東京一八会忘年会

久松 信明

十二月四日、玉淀にて恩師の富田昇先生、鶴巻勝夫先生、池井芳寛先生のお三方をお招きし、二二名で高校一八回卒の忘年会を催しました。



先生方のお元氣なご様子や、久しぶりに会う懐かしさに時のたつのも忘れ、話に花が咲き二次会のカラオケもそっちのけで

話題が尽きることなく時間が過ぎ、名残惜しみつつ六月三日の東進会総会での再会を約束し散会しました。

(本の紹介)

鈴木篤夫(昭31卒)著

「イースター島の悲劇」

倒された巨像の謎

イースター島のモアイ像について知ってはいても、あの奇怪な石像が全て倒されていた

ことを知る人は少ない。なぜ、倒されてしまったのか、島にまつわる、もろもろのミステリーの解明に筆者は取り組んだ。さらに、謎の解明はこの島に止まらず、南太平洋、南米、日本に跨がる文化史的な史実にも波及する。そして、ミステリーの定番であるモアイ像(伝説、製造、運搬、倒壊・戦争)、コハウ・ロンゴ・ロンゴ(謎の未解読文字)、島人儀式(伝説、慣習)、モアイ・カバ・カバ(謎の木彫人形)など、神話・伝説も含めて、この島のミステリーをあらゆる網羅している。ストーリーは、さらに、彼ら(イースター原住民)の祖先は何処からやって来たのか、検証はポリネシア人の植民航海時代から始まってヨーロッパ人による大航海時代に至る南太平洋の諸相を描いている。また、縄文人とポリネシア人や南米先住民との関係を、あながち無関係ではないという可能性を示したりノルウェーの学者トール・ハイエルダールの先住民南米渡来説に対し、南米交流説を検証している。ほかに、ムー大陸の謎なども取り上げた。ここから歴史はさらに遡及して、ポリネシア人の祖先であるモンゴロイドの足跡を辿る。たとえば、定説では南米の先住民はモンゴロイドがベーリング海峡を渡って北・南米大陸に拡散したことになるが、南太平洋経由で海を渡って植民したのではないかという可能性も示している。また本書では、ギーギヤル、サマセット・モーム、メルビル、ビエール、ロティ、司馬遼太郎、チャールズ・ダーウィンなどの書いたものを色々な場面で傍証として引用している。「地球上で一番遠い島」と呼ばれているこの絶海の孤島で演じられた悲劇とはどんなものであったのか、外界と全く隔絶された社会で作られた島の成立から崩壊に至る歴史をたどるとき、ミクロコスモスとしての島の歴史は、民族、国家、ひいては地球の将来を暗示していないか、これは、現代社会に対する警鐘として、われわれにも問われている問題である。本書は、筆者がチリに駐在したときに訪れたイースター島の出来事をノンフィクション・ノベル風にまとめたものである。

(新評論刊 二五六頁 二五〇〇円。ご希望の方は東進会事務局まで)

おしどりエンターテナー 海老原順夫妻プロフィール

海老原 順さん(昭四六卒) シヤンソン・歌謡曲・各種テーマソング歌手・司会・TVタレント・CM出演

【アルバム】「セールのポイント」 TALK・SING・ACT 歌手として、ジャズ、シャンソン、ラテン、カンツォーネ、歌謡曲と何でも歌う。物まねとして森進一、美川憲一、美空ひばり、淡谷のり子などの童謡シリーズを受けている。司会もこなすので、軽妙なトークを交えた楽しい雰囲気ステージである。

【主な出演TV番組】 日本TV「細腕一代記」「重役秘書」ほか。TBS「アップルシティ」「白昼の死角」ほか。フジTV「森村誠一サスペンス」「ぬかるみの女」「山肌」「夢追い旅行」ほか。TV朝日「色の雲」ほか

【企業VTR】 「日立ブルドガー」「日立」「原子力」「東芝・東京電力」その他

【CM出演】 「ソニー」「レイステーションサイ」「ライオン」、八つ目鯉、「石油ファンヒーター日立」、茨城県春の観光キャンペーン、「浅草松豊」ほか

【歌謡番組出演】 NHK「おはよう日本」(二ニュース) TBS TV「街角テレビ」「アップルシティ」ほか。フジTV「夜はともだち」ほか。茨城放送特番「海老原順ショー」ほか

【レコード・CD】 昭五九年九月「コロムビアレコード」

「恋のハンター」でデビュー

平三年九月 第六回世界湖沼会議のテーマソング「レッツクリンアップザレイク」日本クラウンから発売

平五年一月 「レッツクリンアップザレイク」茨城県生活環境部発売

平六年四月 「しいたけ節・しいたけ音頭」発売・全国森林組合連合会

ミュージックテレソン(文化放送)

シルバースター祭り(品川区)

第三回日中友好芸術祭(北京)

世界湖沼会議交流会(グランド東豊)

明大マンドリンクラブ定期演奏会(土浦市)

いばらき大使 「その他の主な活動」 まい・あみ祭り(阿見町) 足立ロータリー

北村みづえさん(本名・海老原光江さん) 一九五九年九月二十八日生・千葉県出身。米国W.Lafayettee高校・桜美林大卒。元日本航空国際線スチュワーデス。 一九八八年よりマナーインストラクター・リクルートシゴスタツフとして活躍。現在はフリーとして講演を行っている。

【TV出演】 NHK「おはよう日本」など

【主な講演内容】 「話し方教室」「ビジネスマナー」「歩き方教室」「イメージアップセミナー」 企業・公共機関からの依頼が中心。 【最近の講演は】 平七年一〇月 きれいなまちづくり後援会(銚子市まちづくり推進協議会) 平十一年九月 千葉県歯科医師会講演

【その他の活動】 歌手としても夫順さんとともに活躍。都内のライブハウスやデイナーショウ・コンサートに出演。ジャンルはシャンソンが得意だがレパートリーは広い。 「レッツクリンアップザレイク」を英訳したのをきっかけに、歌を通じて夫とともに環境浄化を訴えていくキャンペーンを実施中。

編集後記

本号は、東進会の各年次毎の集まりについて特集しました。各学年幹事に原稿の依頼をしましたが、やはり三〇〇四〇才代の働き盛りの年次は仕事の社会が中心で同窓会には余り愛着が湧かないのか、それとも団塊の世代と言われる年代の違いでしょうか。

(編集子)